第2学年 保健体育科学習指導案

指導者 T1 ** **

T2 ** **

R 5 研修センター長期研修

1 単元名 器械運動(マット運動)

2 単元の目標

- (1) マット運動では、技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよく行うことができるようにする。 (知識及び技能)
- (2) マット運動では、技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

(思考力、判断力、表現力等)

(3) マット運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとすること、仲間の学習を援助しようとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。 (学びに向かう力、人間性等)

3 単元について

(1) 教材観

器械運動は、マット運動、鉄棒運動、平均台運動、跳び箱運動で構成され、器械の特性に応じて多くの「技」がある。これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。マット運動は、回転系と巧技系の技からなり、自己の能力に応じて技を選択、習得し、それらの技を組み合わせて、「はじめ一なか一おわり」という連続した技ができるとともに、生徒の技能・体力の程度に応じて条件を変えた技、発展技などに挑戦することが大切である。また、マット運動の学習に積極的に取り組み、よい演技を認めることや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めることなどに意欲をもち、健康や安全に気を配ることができるようにする。

(2) 生徒の実態

体育学習に関する調査

令和5年*月*日実施、第2学年*人

- 1 自ら意見を出したりするなど、 積極的に活動できている できている *人 どちらでもない *人 できていない *人
- 1-1 「どちらでもない」「できていない」と回答した生徒(*人)への自分自身に関する意識 自信がなく、任せている *人 任せていない *人
- 課題解決までの過程を具体的に考えられ、効果的な練習が選択できているできている*人 どちらでもない*人 できていない*人
- 2-2 「どちらでもない」「できていない」と回答した生徒(*人)への自分自身に関する意識 自信がなく、任せている *人 任せていない *人

このことから、積極的に取り組めない生徒が、リーダーシップのある生徒に依存することで、自 分の課題に向き合うことができていなかった実態が推察された。

(3) 指導観

生徒の実態から、中学校第2学年「器械運動(マット運動)」において、探究的な学習過程で、自己

に合った効果的な練習を自己決定できるような授業を展開していく。活動計画づくりでは、①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現(振り返り)の学習過程で行う。学習カードの工夫では、表計算ソフトを活用した学習カードを使い、グループ全体で意見を共有しながら、課題の設定、練習方法などについて情報収集を行い、複数の練習方法を整理しながら比較させ、自己の課題に合った練習方法を自己決定できるようにしていく。

4 単元の評価規準

/rn:±i	4 . tt 45	主体的に学習に
大山前	哉・技能	思考・判断・表現取り組む態度
○知識	○技能	① 選択した技の行い ① 器械運動の学習
① 器械運動には多く	① 体をマットに順々に接	方や技の組合せ方 に積極的に取り
の「技」があり、こ	触させて回転するため	について、合理的な 組もうとしてい
れらの技に挑戦	の動き方、回転力を高	動きと自己や仲間る。
し、その技ができ	めるための動き方で、	の動きを比較して、②仲間に課題を伝
る楽しさや喜びを	基本的な技の一連の動	成果や改善すべき え合ったり補助
味わうことについ	きを滑らかに安定させ	
て、言ったり書き		由を仲間に伝えるして、互いに助け
出したりしてい		
る。	放したりするための着	= - 9
② 技の行い方には技	手の仕方、回転力を高	0 =
の課題を解決する	めるための動き方、起	
ための合理的な動	き上がりやすくするた	
き方のポイントが	めの動き方で、基本的	
あることについ	な技の一連の動きを滑	
て、学習した具体	らかに安定させて回転	,
例を挙げている。	することができる。	. అం
		I I

5 指導と評価の計画(10時間扱い)

時		1	2	3	4	5	6	7 (本時)	8	9	10
	0	オリエンテー		○健康観察 ○本時のねらいと内容の確認 ○準備運動(感覚づくり)							
	10	ション									
	10	習得技術の確	○グループの活	○グループの	ープの ○グループの課題練習						
		認	動計画づくり	課題練習	①課題を設定	でする。					
学	20	学習の進め方	・目標設定	①課題を設定	臣 ②3つの練習方法を試す。						
		知識の学習	・練習方法	する。	③効果的な練習を選んでもう一度行う。 技を組み合				振り返りと		
習		ワークシート		②3つの練習					わせて行う	発表会	まとめ
0		の活用		方法を試す。					練習		単元のまとめ
	30			③効果的な練	③効果的な練 ○自己の課題練習					片付け	
流				習を選んで	①課題ごとの)場所に移動す	る。				
れ				もう一度行	②選択した網	習を試す。					
,,,	40			う。							
	10			O te n ie n						O te n 'e n	-
				○振り返り	n de 1- er vil	n+			- - -	○振り返り	
	50			・本時の振り返りをする。・次時の自己の課題を設定する。・練習方法を決定する。 をする。							
				○整理	単運動 ○学習	のまとめと本国	時の振り返り	○次時の確認 ○	健康観察		
評	知	②記述		①記述							総
価					①観察		②観察			②観察	
0	1X				記述	①知索	記述	○#H ##		記述	括
機	思					①観察 記述		②観察 記述			的
会	態		①観察						②観察		評
	157		記述						少既宗		価

- 6 本時の展開(7/10時間)
- (1) 本時の目標
 - 自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを
- 伝えることができるようにする。 (思考力、判断力、表現力等) (2) 準備・資料 マット、セーフティーマット、跳び箱、ロイター板、ラダー、学習カード タブレット端末

(3) 展 開

(3)	戊	 	
		学習内容と学習活動	教師の指導・支援(◆評価規準と方法)
	1	準備	T1・T2:安全に準備ができるように呼びかけをする。
導入		・マットを準備する。	
5分	2	整列・挨拶・健康観察・準備運動 (感覚づくり)をする。	T1: 出欠の確認と生徒の健康状態を把握する。見学者に はタブレット端末でフォームを撮影しての補助や参 考になる動画を仲間に提示するようにする。
	3	本時の学習内容(課題)をつかむ。	T2:準備運動で関節の可動域が広がるように助言する。 T1:練習を行う前に、前回の反省した課題と本時の課題 について話し合っているか確認する。
		滑らかに一連の動きて	技を行うために、効果的な練習を選ぼう。
	4	各グループで決定した基本的な技の練習をする。 ・課題を設定する。 ・3つの練習方法を試し、比較す	T2:巡回指導をし、つまずいている生徒については状況 を見ながら個別指導をする。 T1・T2:グループ練習やペアでの練習が滞っている場合 は、生徒同士で補助したり、助言したりできる
展開		る。	ように支援する。
35 分		・自己にあった練習を選ぶ。 ・選択した練習方法を振り返る。	T1・T2:巡回指導をして、次の学習に向けての振り返り ができているか確認する。
		ZNUNHAMAZIA,	ア 回転系の技において、手の突き放しが弱いため、上 体を起こすことができず、尻もちをついてしまう。
			T1・T2: アには、ロイター板などを活用し、勢いよく回れるようにし、マットを押すタイミングを助言、指導する。
			イ 倒立系の技において、頭と手のバランスが悪いた め、体を支えることができない。
			T1・T2: イには、手の位置と目線の位置が違うため、両手をつく位置とマットを見る目線が三角形になるように助言、指導をする。
			ウ 自信がなく、自分の考えを伝える機会を見いだせない。
			エまったく考えられない。
			T1・T2: ウとエには、グループの活動計画づくりの中で仲間の意見を参考にして伝えるように助言する。
	5	自己の課題練習をする。 ・課題を設定する。	T1:自己の課題となる技を練習するように指示する。難 易度の高い技を習得したい生徒については、安全面
		・自己と模範の演技の違いを見付ける。	について配慮しながら練習を行うように指示する。 巡回指導をし、技のポイントや補助の仕方を助言、
		・練習方法を選択する。 ・練習方法を実践する。	指導する。 T2:難易度の高い技を行う生徒の補助を行う。
			T1:状況に応じて、希望者の技能確認をする。
			な練習方法の選択について、自己の考えを伝える ことができる(思考・判断・表現)【観察・記述】
まとめ	6	本時の学習の振り返りをする。 ・次時の向けての振り返り	T1:けがや体調不良がないか確認する。 T1・T2:自分の考えがまとまらない生徒には、グループ
10 分			の活動計画や仲間の意見を参考にするように助 言する。
			T1・T2:自分の考えがまとまらない生徒には、グループ の活動計
	7	挨拶・片付けをする。	画や仲間の意見を参考にするように助言する。 T1・T2:安全に配慮して片付けができているかを確認す る。
			- ~